

様式③

提出日令和3年1月27日

2020年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「池間島の伝統文化と池間島の地域教育の繋がり」

氏名：林まき

所属学部学科：人文学部こども文化学科

I. 初めに

1年次で行った「西原地区(宮古島市平良字西原)の伝統行事ミヤークヅツと地域教育について」の研究で主となったミヤークヅツのルーツを探ると、池間島に原点があった。私の生まれ育った西原地区は、地域全体で子どもを育てるという意識が根強く、学校教育(西辺小中)にも地域との繋がりを意識した授業が多くあった。地域全体で子どもを育てると言った地域性の背景には、伝統行事ミヤークヅツが関係していると考えため、今回はミヤークヅツのルーツである池間島に焦点を置き、地域教育の重要性や効果をインターンシップ校と比較して考える。

II. 研究の目的、動機

伝統行事から暮らしを分析し、その暮らしで生まれた文化や地域性、生活と教育がどう言った繋がりを持つのか探る。

III. 研究方法、地域、期間

研究方法	研究場所	期間
資料収集	県立図書館 宮古島市立図書館	8月～1月
伝統行事ミヤークヅツ参加	池間島	中止となった為無
池間島の人々へのインタビュー		知り合いから紹介してもらっても連絡がつかずで無

IV. 結果

別紙の通り p4.5

V. 考察、分析

ミヤークヅツの意義から、子どもたちが育ち経済を支えるようになり、親が楽ができるようになる、楽になることへの喜びが人生最高の喜びという、ミヤークヅツの行事の中に子どもについて関わるものがあるのではなく、ミヤークヅツそのものが子どもから得た喜びという人生における子どもの影響力がとても大きいことがわかった。また、子どもが立派に育つことが人生最大の喜びとっているように、ミヤークヅツではそれを願っているのだと思った。形上としては五穀豊穰を願うというときもあるが、それは子どもたちが親を助けるために行った仕事での豊作を願うことであったり、豊作だったから次もまた豊作でありますようにと言った願いが込められているのではないかと考えた。2日目のマスムイでは、新しく地域の仲間として育っていく子どものムトゥへの入会式のようなものが行われ、ムトゥへ顔を教えると共に、祖先の方々へ守っていただきたいという紹介がされていた。子どもたちを地域全体で育てるといいことは、地域（池間島）を豊かにするという目的があったといいことがわかった。また、当時の学校教育が残っているような地域教育が池間幼、小中の学校カリキュラムに根付いていた。中でも地域愛として、故郷を大切にすることを育成するために、伝統を知る、そして繋いでいく活動があり、保護者と地域と学校が連携を取り、池間島全体で子どもたちを育てる地域教育という枠組みを超えた教育を行っていた。

このことから、池間島が人頭税に苦しみ、貢物の強制に苦しんで子どもを育てることが大変苦しかったが、子どもが成長し大人となって働き、経済力が高まり暮らしが豊かになったことから生まれたミヤークヅツから、子どもたちを地域全体で育てると言った地域性が根付いたのだと考えた。そして、その地域性が今もなお学校教育で行われている故郷を大切に、子どもたちにとって「かけがえのない故郷」になるための教育活動が行われているのだと思った。それは、池間島が分村してできた西原地区にもいえる。西原地区では池間島程子どもを意識してミヤークヅツを開催してはいないが、マスムイを通して地域全体で子どもを育てるといった意識が根付き、充実した地域教育へと繋がっていると考える。

VI. 今後の展望

池間島ではミヤークヅツの行事を受け継いでいく人が随分と減ったようで、行事事態が簡素化されつつある。しかし、学校教育で保護者と地域、学校がうまく連携を取れているので、地域全体で子どもを育てると言った地域教育はなくならないと思う。

VII. 終わりに

今回の研究では、新型コロナウイルス感染症の影響で、思うような研究活動が出来ず、内容としてももっと濃く出来たのではないかと思う。古く詳細な資料を見つけられ、宮古島にも資料が残っていたので研究を続けることができた。フィールドワークを通して、また、現地の人の言葉で地域教育について知りたい。

VIII. 参考文献、調査協力

池間島のミヤークヅツ（池間民謡保存会）

沖縄池間島民俗誌（野口武徳）

IX. 指導教員コメント

コロナ禍でフィールドワークが制限される中、文献研究とインタビューを実施した研究活動に関しては評価できます。「沖縄池間島民俗誌」（野口武徳）は研究において基本中の基本の文献となっていますが（県立図書館や沖大琉球弧資料室で閲覧できますが）、「池間島のミヤークヅツ」（池間民謡保存会）はなかなか手に入らない貴重な資料であると思います。現地で見つけた時の喜びは、大きいものがあったでしょう。

「ミヤークヅツ」は男性を軸とした祭りでもあります。女性を軸とした祭りである「ユークイ」の歴史も踏まえ、地域教育にどう生かしていくかを考えると次の展開になると思いますし、伊良部島と西原の事例と比較すると見えてくるものがあると思います。ユークイはツカサが少なくなったために行えなくなりましたが、島の歴史教育には外せない存在でもあるはず。以下は関連すると思われる研究資料・論文・雑誌の詳細です。今後の研究のために参考にしてみてください。

野口武徳『沖縄池間島民俗誌』未来社、1972年

本永清「宗教的宇宙観と祭祀との関係について（上）－宮古・池間島の事例から－」『沖縄民俗研究』2 沖縄民俗学会、1979年

『池間島のミヤークヅツ 沖縄県選択無形民俗文化財記録作成』池間島民謡保存会、1981年

本永清「コスモロジーと祭祀－宮古池間島の事例から」『民俗学研究所紀要』7 成城大学民俗学研究所、1983年

『谷川健一著作集 2 民俗学篇Ⅱ 民俗の神 民俗紀行』三一書房、1984年

谷川健一「古琉球の信仰 世乞い祭」『谷川健一著作集 6 沖縄学篇 琉球弧の世界』三一書房、1987年

大城學「池間島のミヤークヅツ」沖縄タイムス社編『おきなわの祭り』沖縄タイムス社、1991年

宮岡真央子「神々の籤引き－宮古池間島の童名に関する一試論－」『沖縄民俗研究』16 沖縄民俗学会、1996年

奥浜幸子「生命根の神・ウハルズ御岳－池間島」『暮らしと祈り－琉球弧・宮古諸島の祭祀世界』ニライ社、1997年

奥浜幸子「ユークイの拝所は今－池間島」『暮らしと祈り－琉球弧・宮古諸島の祭祀世界』ニライ社、1997年

新里幸昭「池間島の年中行事と神歌」『紀要 沖縄学』2 沖縄学研究所 1998年

安谷屋昭・松居友『沖縄の宇宙像 池間島に日本のコスモロジーの原型を探る』洋泉社、1999年

伊良波盛男『池間民俗語彙の世界 宮古・池間島の神観念』ボーダーインク、2004年

犬飼公之「人間の誕生と死－池間島からの発信－」『沖縄研究ノート』14 宮城学院女子大学、2004年

野本三吉「ナナムイの島・池間」『海と島の思想 一琉球弧45島フィールドノート』現代書館、2007年

仲本光正「池間民族（西原）のミヤークヅツ 2 表日（あらび）」『島たや』2-2 クイチャーパラダイス友の会、2007年

仲本光正「宮古島池間民族の神願い（ナナムイ） 第1話 西原のミヤークヅツ 2」『島たや』2-1 クイチャーパラダイス友の会、2007年

仲本光正「池間民族（西原）のミヤークヅツ 3 後日」『島たや』3-1、クイチャーパラダイス友の会、2008年

笠原政治『〈池間民族〉考 ある沖縄の島びとたちが描く文化の自画像をめぐって』、風響社、2008年

本村満編『写真で追う池間島のミヤークヅツ 島最大のイベント』本村満、2008年

研究結果

1. 池間島の伝統行事ミヤークヅツについて

旧暦 8、9 月の甲午の日から 3 日間に渡って 4 箇所（マジャ、アギマス、マイヌヤ、マイザトゥ）を中心に行われる池間島最大の年中行事。ミヤークヅツにおいて各ムトゥで行われる儀礼は、55 歳以上の男性で構成されるムトゥウヤたちを中心に、年齢会梯的な組織で運営されている。

期間中、各ムトゥに所属するムトゥウヤたちは早朝 4～5 時頃ムトゥに集まって酒を酌み交わし談笑して過ごす。酒や肴はマスムイといってムトゥウヤたちの家族の者が属するムトゥに届ける。特に 2 日目には前年のミヤークヅツ以降出生した乳児の名前等が紹介される。ヤラビマス（魚）を届けた者は乳児の健康等を祝する小魚をもらって帰る。大正以前は、ムトゥの長老がヤラビマスを持ってきた者を前に座らせ神酒をムトゥ所有の中皿にうつし、これをその人に持たせて乳児の幸福を予祝する大皿アグをうたったという（西原地区では今も行なっている）。

午後 4 時過ぎになるとマジャムトゥを先頭に各ムトゥのウヤたちが池間・前里の境界にある水浜の広場周辺の所定場所に座る。ツカサンマ（司母）たちによるクイチャーが行われた後、ツカサンマたちを囲んで一般参加のクイチャーが盛大に行われる。

2. ミヤークヅツの意義について

人生最低の苦しきから最高の喜びに変わる時、池間島では次のような言葉が使われる。写真 1 を訳すると、次のようになる。

旧暦の 8 月 9 月というとき期的にも農作物の収穫も殆ど終わり、農閑期に入り次の種蒔き時期までは骨休みの一時でもあるので、時期的にも最も適当な好時期としてそのように決めたといふことである。

3. ミヤークヅツ 2 日目マスムイ

マスムイでは前年のミヤークヅツ以降出生した乳児の名前等が紹介される。ヤラビマス（魚）を届けた者は乳児の健康等を祝する小魚をもらって帰る。大正以前は、ムトゥの長老がヤラビマスを持ってきた者を前に座らせ神酒をムトゥ所有の中皿にうつし、これをその人に持たせて乳児の幸福を予祝する大皿アグをうたったという（西原地区では今も行なっている）。

孫や曾孫がいるような年齢の男性が主として担う行事のようにも思える、全体的に世俗性を基調にした行事のようを感じる。

男の子に対しての歌では写真 2 のようになっていて、如何にも幼児に対し希望と理想を大きく然も丹精込めた祈願である。

女の子に対しては写真 3 のように詠んだという。つまり女は出世者の妻となり、夫婦

揃って幸福な人生を送るようにとの真心を込めた願いである。

4. 池間小学校のカリキュラム

三愛教育：子どもたちの心に「学校愛・友達愛・故郷愛」という三つの愛を育もうとする教育。池間島は池間幼小中で学ぶ子どもたちにとって思考と行動の舞台。生まれ育った故郷。学年の枠を超えた関わりや島の大人たち（保護者・地域・学校）との様々な関わりにより島を意識し、心の中に自分の生まれ育った池間島に対する高い誇りと深い愛情が育った時、この島は子どもたちにとって初めて「かけがえのない故郷」になる。

学校愛（学校を大切にする）

主な活動

- ・朝のボランティア活動
- ・給食後の清掃活動
- ・環境美化活動
- ・学校創立記念行事

友達愛（友達を大切にする）

主な活動

- ・朝の読み聞かせ活動
- ・トゥンカラ体験活動

故郷愛（故郷を大切にする）

主な活動

- ・クリーン活動
- ・トライアスロン応援活動
- ・海の体験活動
- ・ハーリー体験
- ・オオガニ観察会
- ・環境学習
- ・高齢者との交流活動
- ・ミャークヅツ

5. 池間島の「子どもの暮らしを包み込むプロジェクト」

写真1

ッファガマ	ンミス	イミカイキヤ		
子供	等の	小さい時には		
umukja	mitsi: ti:	a: su ku		
ウヌキヤ	ムツティ	アンスウク		
それ等を	育てるために	あんなに		
ku: katai	su ga da	u nu kja ga		
クーカタイ	スウガドウ	ウヌキヤガ		
苦し	かったが	それ等が		
φu i nu	na i:	ha taraki:	di n na	
フウイス	ナイー	ハタラキイ	ディンナ	
大きく	なって	働いて	お金を	
mauki i	mu ti: tti:	fi: ri ba		
マウキイ	ムティーフティ	フィーリバ		
儲けて	持って来て	くれるので		
nna ma	fa i nu ju	nu nnu ju: ja		
ンナマ	フェイスユ	ヌンヌユーヤ		
今は	食い放題	飲み放題が		
i di	baga	mja: ku:	ma tja i:	
イディ	バガ	ミャークー	マチャイー	
来て	私の	最高の喜びが	訪れ	
sitanti	ati:	φukarasi	kaiba	nara n
スタンティ	アティ	フウカラス	カイバ	ナラン
た	と	余り	嬉しくて	たまた
				ない

写真2

bi guga pa na	sima nu pa na		
ビグガバナ	スマヌバナ		
男	の	花	島
tu juma fi	fi: sama ti:		
トゥユマシ	フィーサマティ		
有名になって	下さい		
ju na urja ga	juma sa rja ga		
ユナウリヤガ	ユマサリヤガ		
世直り	で	世勝って	
u ja ki	ja: ja	ma: nu	
ウヤキ	ヤーヤ	マース	
富貴の家に		真っ直ぐに	
kaddzu u	si sa re		
カッチュウ	スサレ		
行って	下さい		

写真3

ミドゥンバナ	スマヌバナ		
女の	花	島	の花
ミュートウ	スウイ	ナウレ	
夫婦	揃って	直れ	
ユナウリヤガ	ユマサリヤガ		
世直り	世に勝って		
ウヤキ	ヤース	マース	
富貴	家に	真っ直ぐに	
カッチョー	スサレ		
行って	下さい		